

International Exchange Center

国際交流センター

※開催についての最新情報は本学HPをご確認ください。

国際交流センターは、学生が広い視野を持てるよう海外での学びを推進しています。
そのため協定校を拡大し、多様な国際交流の機会を提供しています。

シンガポール研修

(ナンヤン工科大学／9日間)
【看護学科・医療福祉学科対象】

多民族国家・シンガポールの医療福祉施設の見学を通して、その先進的な取り組みやシステムを学ぶとともに、多様な言語や文化的背景を持つ人々への理解を共に深めていくプログラムです。



オーストラリア研修

(イーディスコーワン大学／11日間)
【看護学科、医療福祉学科、東京理療法学科、東京柔道整復学科、理学療法学科、作業療法学科、柔道整復学科、幼児教育学科、学校教育学科、こども学科対象】

各学科に関連する多彩な内容が組み込まれ、講義・施設・病院訪問、高齢者との交流、学校訪問などを通じてオーストラリアの教育・医療・福祉の実際を体験的に学びます。



University Festival

帝京科学大学学園祭

※開催についての最新情報は本学HPをご確認ください。



科大祭(東京西キャンパス)

科大祭実行委員長 橋本 拓磨

今年度の科大祭は10月18日と19日の2日間で行われます。本年は実行委員の人数が昨年度より2倍となり、より皆さまが楽しめるような大学祭の運営を目指しています。35周年を迎える科大祭は、本学の自然豊かで広いキャンパスと地域とのつながりを活かした出店や企画、ステージなどでお客様に「来てよかった」と言っていただけるよう全力で準備を進めています。他にもビンゴ大会やクイズ大会など、豪華景品が当たる企画や打ち上げ花火などもご用意していますので、当日まで楽しみにしてください。皆さまのご来場、心よりお待ちしております。

桜科祭(千住キャンパス)

桜科祭実行委員長 石原 颯泰

今年の桜科祭は11月1日(土)と2日(日)の2日間で開催します。今年度も例年通り開催できるのは、実行委員をはじめ多くの方々のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。今年は多くの学生が実行委員会に参加し、より一層大学生らしさを感じていただける内容になっています。桜科祭は、帝京科学大学に関心のある高校生をはじめ、小さなお子さま連れのご家族や地域の皆さままで、幅広い方々に楽しんでいただける学園祭です。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



編集
後記

近年、生命を脅かすような酷暑、短時間記録的大雨といった極端気象現象が続いています。このような自然現象に打ち勝つためには、本学の建学の精神にも述べられている「人類の将来を正しく見据え」、「自然と人間の共生に貢献できる」高度な専門知識、実践的な問題解決能力を身につけることが重要です。本学での学修で得た知識、実践力を卒業後に一社会人として活かしていくことにより、母校の名を称える気持ちを持ち続けていただければ幸いです。皆様には、引き続きのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

【ニューズレター部会長 渡邊 浩一郎】

いのちをまなぶキャンパス



帝京科学大学

【発行人】
帝京科学大学 学長 冲永 莊八
〒120-0045
東京都足立区千住桜木2-2-1
TEL:03-6910-1010(代表)



Teikyo University of Science



Teikyo University of Science

VOL.
38

TOPIC

— Teika Close up —

陸上競技部
女子駅伝チーム

卒業生に会いに行く
両親への手紙



Teika Close up

帝京科学大学 陸上競技部 女子駅伝チーム めざすは杜の都・富士山女子駅伝 2年連続出場

創部7年目にして初出場を勝ち取った「全日本大学女子駅伝(杜の都駅伝)」 「全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)」から早1年。地上波で生中継されるほど注目度の高い本大会への連続出場をめざし、10月4日に開催される「第31回関東大学女子駅伝(全日本大学女子駅伝 関東地区選考会)」出場前の日々活動に取り組む彼女たちの姿を取材。

一つでも、二つでも、 去年よりも良い順位で襷をつなぐために

創部7年目にして杜の都・富士山女子駅伝初出場という快挙を成し遂げた女子駅伝チーム。杜の都駅伝は総合12位と大健闘したものの、年末の富士山女子駅伝は総合18位。当日のチーム全体のコンディションはあまり良くなかったという後悔が残っているという。その悔しさをばねにして、昨年よりも一つでも、二つでも良い順位で襷をつなぐことが今年の目標。大会に対して覚悟をしっかりと持ち、チームに貢献できる走りをして、力と勢いがあるチームだと証明し、後輩たちにつないでいきます。



チーム沿革

- 2018年4月 女子駅伝チームが強化クラブとして始動
- 2023年3月 清野純一監督が就任
- 2024年9月 関東大学女子駅伝で過去最高の8位に入り、創部7年目で初の全国大会出場権獲得
- 2024年10月 全日本大学女子駅伝 初出場12位
- 2024年12月 富士山女子駅伝 初出場18位



今年のチームは 「個性豊かでエネルギッシュ」

4年生の部員はわずか2人で3年生は0人。しかし1・2年生は全国の強豪高校からの入学者もいて、競技力と意識が高く、元気で明るい振る舞いもあり、チーム全体を勢いづける戦力となっています。チームをまとめる4年生2人も下級生に負けていけないと、互いに切磋琢磨しながら日々のトレーニングに励み、更なる団結力の向上につながっています。

interview



主将 渡辺 笑夏さん
医療科学部
東京柔道整復学科 4年生

昔は人前に立って意見を言うのが苦手でしたが、将来のため、自身の成長のためにもチームの主将に立候補しました。人としても成長でき、競技力も向上できた4年間でした。卒業後は、本学への進学の手だった柔道整復師の道に進むので、競技は大学で引退します。競技人生10年間の集大成として、悔いの残らない、最高の走りをしてチームに貢献したいです。



中村 愛莉さん
教育人間科学部 学校教育学科
中高保健体育コース 4年生

思い返せば、あっという間の4年間でした。2年半前に清野監督が就任されてからは、競技面だけでなく、人としても今まで以上に成長できた実感があります。卒業後も憧れのマラソンへ挑戦するため実業団チームに所属し陸上競技を続けます。次のステージで活躍するためにも、まずはこのチームで目標を達成して昨年よりも良い順位が残せるように頑張ります。



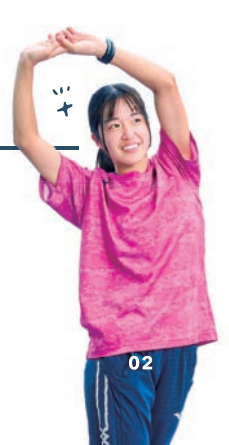
◆ 帝京科学大学
★ 駅伝部
公式SNSはこちら



他部活・サークルの
活動はこちら



東京西キャンパス 千住キャンパス



教員活動報告

生命環境学部

Faculty of Life & Environmental Sciences

アニマルサイエンス学科

門多 真弥 助教

本学科では、有志の3年生を対象に「海外実習」が実施されています。異国の地で「アニマルサイエンス」の新たな一面に触れることを目的に、活きた知識と刺激を求めて、今年も多くの学生が海を渡りました。千住キャンパスの学生たちは、タイのバンコクにあるカセサート大学へ。獣医学や動物看護学の最先端施設を訪問し、現地の専門家との交流を通じて、日本との違いを肌で感じました。一方、東京西キャンパスの学生たちは、アメリカ・サンフランシスコへ。現地の研究者との意見交換や、動物園・水族館・博物館・動物保護施設等での観察を通して、多様な視点と新たな発見を得ました。異文化に触れ、目を輝かせながら知識を吸収していく学生たちの姿は、私たち教員にとって何よりの喜びです。私たち自身も新たな視点を得ることができました。



自然環境学科

篠原 正典 教授

本学科ではキャンパスを飛び出し、自然の中で宿泊を伴って学ぶ環境特別実習Ⅰ、Ⅱを実施しています。Ⅰは小笠原諸島まで赴き保全の実際を学び、Ⅱでは京都で野生ニホンザル、和歌山で野生アカウミガメを観察してきました。旅費が学生の自己負担となる選択制実習ですが、3年生の実習Ⅰは約7割、実習Ⅱは約4割が参加してくれる人気の実習です。昨年度より、学びの選択肢を増やすべくⅡの実習訪問先を拡充し、世界自然遺産の地である屋久島、知床半島、そして奄美大島へと広げました。世界に類を見ない固有の自然を楽しみながら、最前線での保全やインタープリテーションを体得できるのに加え、宿泊を伴う実習のため、夜行性の野生動物や星空を楽しめるのも魅力です。



生命科学科

上野 良平 准教授

卒業研究は、大学4年間で学んだことを実践に活かす場です。1～3学年の間に学んだ知識と技術を総動員し、研究活動を行います。特に、2年生後期から3年生前期にかけて行われる実習科目（生命科学基礎実験と生命科学実験）を通して学んだ、さまざまな実験手法を実践的に試す機会となります。これらを道具として「誰も知らない現象を解明する、または新しい物をつくる」という試みを、学生自らの手で行います。教員の仕事は、学生たちがこのような試みを通して成長するためにサポートすることです。後期に入って就職活動が一段落すると、皆集中して卒業研究に取り組みます。写真は、学生たちが海藻成分の効果を、遺伝子レベルで調べているところです。



授業・研究における学生たちとの過ごし方

教育人間科学部

Faculty of Education & Human Sciences

こども学科

園山 博 准教授

「理科」や「生活」では、理解を深めるために実験や観察、工作や栽培など多様な活動を取り入れています。しかし、それだけでは「誰かの取り組みをなぞる授業」にとどまってしまう。学生には自分の経験を踏まえ、自ら授業を組み立てる力を養ってほしいと考えています。その工夫として研究室の前にモノを置き、自然に触れるきっかけをつくっています。なかでもモンシロチョウの蛹（さなぎ）を並べたときは反響が大きく、学生が羽化の瞬間に立ち会い、教育系以外の学生までもが「先生、チョウが生まれています」と知らせに来てくれました。日常には自然の事象があふれているのに、普段は見過ごされがちです。それを見えるようにする「メガネ」が「理科」という教科です。授業を通じて日常の自然へ目を向ける力を育むために、今日も研究室前にモノを置いています。



幼児保育学科

安部 久美 助教

「保育・教職実践演習（幼稚園）」は、子ども一人ひとりの発達を支える保育者としての実践力を統合的に養う総仕上げの科目です。学生は実際の保育場面を想定した演習を通じて、子どもの心身の発達特性を踏まえた環境構成や援助のあり方を学びます。例えば「園のお誕生会企画・実践」では、誕生日を迎える子どもの成長を祝う意味を理解し、他の子どもたちも共に喜びを分かち合える場づくりを追求しました。学生は「3歳児、4歳児、5歳児では参加の仕方が異なることを押さえたうえで、それぞれの発達に応じた役割を設定し、全員が主体的に参加できる会を考えました」と振り返っています。このような実践を通じて、子どもたちの成長を支える専門的な力を、将来の保育者として丁寧に身につけています。



学校教育学科

岩沼 聡一朗 准教授

アダプテッドスポーツを通じて、児童生徒一人ひとりの活躍を支えられる教員の養成に取り組んでいます。アダプテッドスポーツとは、障害の有無にかかわらず誰もが参加しやすいようにルールや用具を工夫するスポーツです。授業「教職セミナーⅠ」では、知的障害のある人と共にフロアボールを体験しました。学生たちは「障害の有無に関係なくプレーを楽しめる」「試合中のハイタッチや会話が互いを知り、活かし合える」といった学びを得ました。また、足立区スポーツ協会主催のデフリンピック広報イベントでは、ゼミ生がブースを企画し、聴覚障害のある人との多様なコミュニケーション方法を体験できるゲームを提供しました。こうした取り組みを通じて、学生はインクルーシブな視点を持ち実践する力を培っています。



医療科学部

Faculty of Medical Sciences

理学療法学科

吉沢 剛 講師

2025年度より東京西キャンパスの医療科学部3学科の希望者を対象に、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー課程が開講しました。今年度の履修学生は31名(理学療法学科21名)で、それぞれの学科の国家資格取得とともに、アスレティックトレーナーの資格取得を目指しています。私はこれまで水泳競技を中心にバラスポーツも含め、さまざまな競技の選手に対するリハビリテーションやコンディショニングに関わってきました。現在も現場での活動は継続しており、昨年はパラリンピック(パリ)、今年はワールドユニバーシティゲームズ(ドイツ)にトレーナーとして帯同しました。講義や実習では、スポーツ現場で経験した具体的な事例を学生たちに提示し、あらゆる状況に対応できる能力を身につけ、理解を深めることができるよう展開しています。



柔道整復学科

松原 一誠 特任助教

柔道整復師は一般に「ケガ」の対処を生業とする職業であり、国家資格が必要となります。本学科でも日々、国家試験の合格に向け、対象科目の補講の時間や学生同士のグループを作り、グループ学習の時間を確保しています。学生同士でグループ学習を実施することにより、インプットとアウトプットの確認や、これから社会に出て必要になる「問題解決におけるコミュニケーション能力」の育成につながっていると思います。また、国試対策室から所属教員の研究室が近いため、分からないところなどすぐに質問できる環境を整えています。学生たちが自ら問題に対し解決に向け動けるよう支えていきたいと考えています。



作業療法学科

本間 信生 教授

現代科学の著しい進歩の結果、生理学や解剖学といった基礎医学領域と医療現場での実践的な学問分野との間に多少の距離が生じつつあります。そこで、学生たちが基礎医学から臨床医学へとスムーズに移行できる助けとなるよう「基礎医学応用」の授業を2年生時に開講しています。内容は「心電図の解説」「栄養学」「骨の成長と発達」「反射の診方」等講義では触れられなかった項目が中心です。また座学だけでは興味に欠けるので、多少は実践的演習的な内容にしています。「栄養学」の例を挙げれば、1)糖含有量の高いお菓子などを食べた前後で血糖値を計測、2)糖代謝(多糖、二糖類、単糖類)などの理解、3)食品成分表示の理解(炭水化物、糖質、糖分などについて)などを学んでもらっています。講義中に堂々と甘味やデザートなど食べても良いので、学生には好評のようです。稀に血糖値が高めの学生も見つかるので、健康診断的な意味合いもあるかもしれません。



看護学科

糸井 和佳 教授

人々が健康で安心して生活できる地域社会をつくり、一人ひとりに寄り添い、健康な生活を支えることが保健師の仕事です。生活習慣病や要介護状態などの予防のみならず、虐待やメンタルヘルスという潜在的な問題への予防的アプローチを行います。子育て中の母親が、地域の中で安心して育児ができるよう、不安や悩みを聞き、生活に即したアドバイスをを行い、母親同士の交流が生まれるようにグループ支援を行います。さまざまな関係機関と連携し、孤立や虐待を予防しています。保健師課程の学生が、実習を経て実習区の健康課題を踏まえた保健活動を発表し、保健師の支援技術を考察しました。学生は、地域の健康を守る保健師の魅力を生き生きと伝えてくれました。



東京理学療法学科

小山 優美子 講師

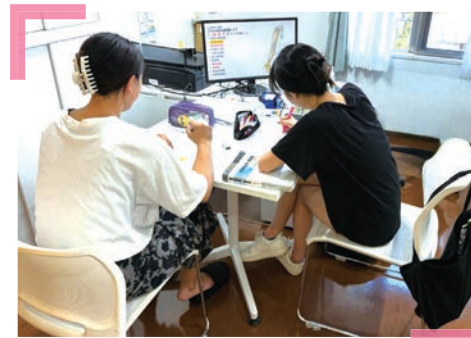
本学科では、今年度からシンガポール工科大学との交換交流もスタートし、8月18日～8月22日には現地の理学療法、作業療法学生20名が初めて、研修のために来日されました。本学科は『日本の医療制度とリハビリテーション』『ロコモティブシンドロームの理解』という授業を行いました。医療制度に関する授業は、日本の学生にも聴講してもらい、医療費や臨床実習制度の違いを知るとお互いに驚く場面も。現地の学生からの質問は我々にはない視点も多く、勉強になるとともに、国際交流の醍醐味を感じられました。一人でも多くの学生が見聞を広めるきっかけをつくれるよう、今後も活動していきたいと思っています。



東京柔道整復学科

佐藤 勉 講師

本学科では、授業に加えて補講の時間も大切にしています。授業では知識を伝えるだけでなく、学生が自ら考え、友人と意見を交わしながら理解を深められるよう工夫しています。しかし、授業だけでは十分に理解できなかったり、もっと学びたいと思うこともあります。そのようなときには、学生の要望に応じて補講を行います。たとえ少人数であっても実施し、一人ひとりの疑問に丁寧に向き合うことで安心して学べる環境を整えています。補講は、理解の定着や個別の相談にも役立つ時間です。授業と補講を積み重ねることで、学生が自信を持って学びを深めていけるよう心がけています。



医療福祉学科

中里 哲也 准教授

毎年、日本医療ソーシャルワーカー協会の全国大会に学生とともに参加しています。2025年度は三重大会に参加しました。将来MSW(医療ソーシャルワーカー)を目指す学生にとって、4年間の貴重な大学生活で現場の空気に触れるのは何よりも重要な経験です。大学では理論や制度について学びますが、学会では医療機関の相談職として活躍する専門職の発表を通じて、最新の事例や研究成果に直接触れることができます。学生たちは、教科書の知識と現実の臨床現場を結びつけ、大学での学びをより深く理解できるようになります。また、全国から集まる同じ志の仲間や先輩MSWとの出会いは、学習への意欲を高め、専門職としてのアイデンティティ形成にも大きく寄与します。限られた4年間の学生時代だからこそ、大学内での学修と現場体験の両輪を大切に、理論と実践の架け橋を早期から構築することで、より質の高い専門職への成長を促したいと考えています。



「まなび」を支える 3つのセンター

総合教育センター

総合教育センター 榎原 健太郎 准教授

「今、どんな時代を生きているのか?」「変動する未来社会でどう生きればよいのか?」。こうした問いは、キャリアや進路に真剣に悩む学生の皆さんと共に教室の内外で向き合う「問い」ですが、もちろん分かりやすい答えは用意されていません。他方、総合教育センターでは、教養教育の力でこれに答(応)えています。教養は、すべての学問の要。諸学の理念と方法を学ぶことで、世界を遠くまで見渡して、世界を広く深く捉える力を養います。心から宇宙、言葉から数などまで多岐にわたる学問を学び、未来社会や歴史文化、そして生きる意味を探究する学問の精神を知ることを通して、自分たちが今どこにいて、どこへ向かっているのかを深く自覚することこそが、本学の教養教育の核心であり実質である、と本センターは考えています。教員は、学生との対話を通した人間的な交流を大切にしながら、「いのちをまなぶキャンパス」の教養教育を担っています。



教職センター

教職センター 宇佐美 健 助教

教職センターでは、教育学の研究を専門とする専任教員と、学校現場や教育委員会などで実務家として長期の経験を有す教員(特命教授)が、協働して学生の指導にあたっています。教職課程科目では、最新の研究の動向をもとにした体系的な理論を教えるだけでなく、採用後に教育現場で活躍できるための実践力を身につけられるよう、指導にあたっています。また、教員採用試験対策を早期から実施し、面接練習や小論文指導だけでなく、専門教養や教職教養の学びも支援しています。東京都足立区や山梨県上野原市等との地域連携にも力を入れており、インターンシップや学生ボランティアをご紹介します。早い時期から教職センターに入室していた学生は、4年間という長い付き合いになります。私たちも皆さんの迷いや悩みに寄り添い、いつでも相談できる関係を築いていきたいと思います。ぜひ、教職センターに気軽に顔を出してください。

医学教育センター

医学教育センター長 高田 雄三 教授

医学教育センターの教員は、基礎医学や臨床医学に対して、最新の研究や自身の研究成果、医療現場での診断、治療から得られた知識や経験を基に、各学科の教員と連携して講義および国家試験対策に取り組んでいます。また、アクティブラーニングやグループ学習といった多彩な教育を通して、自主性があり周囲の人たちと協調した連携がとれる優れた医療人になるための土台をつくり、あらゆる可能性を想定した柔軟な発想で問題解決できる応用力や臨床実践力を修得できるように努めています。そして、国家試験に合格することのみならず、社会で活躍でき、医学と医療の発展に寄与できる実力のある人材を社会に送り出したと考えています。

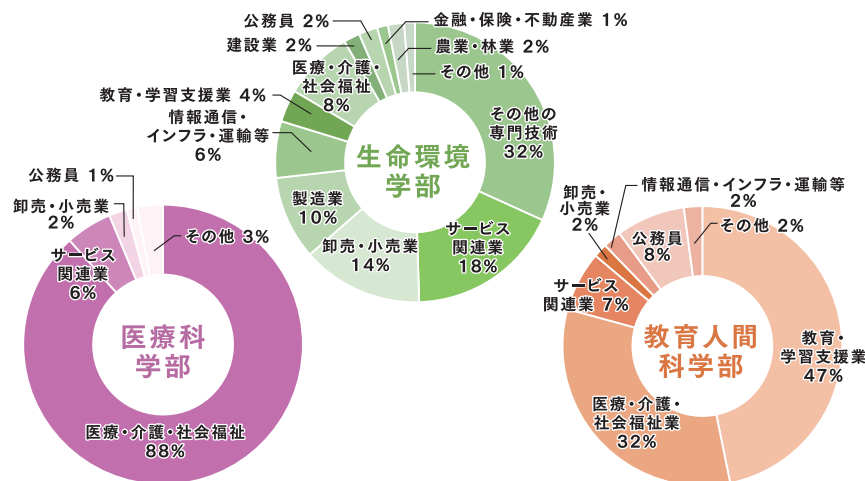


キャリア支援センター

親身な面談や充実した情報提供など、多角的なサポートによって学生の夢を手厚く応援。在学中はもちろん、卒業後まで一人ひとりに寄り添うキャリア支援を行っています。

就職実績(2024年度卒業実績)

2024年度は、人手不足の影響と企業等の新卒学生の採用意欲がさらに強まりました。本学に届いた求人が5万件を超え、本学の就職希望の学生のほとんどが就職先を決定しています。生命環境学部は「動物」「環境」「食品」系統に志望が集まり、動物看護師、飼育員、動物関連企業、環境調査企業、土壌・水質処理関連企業、食品製造、商社などを主な就職先を選んでいきます。医療科学部は国家試験合格者のほぼ全員が、医療・介護・社会福祉関連への就職が決定しています。病院施設、介護施設、療育施設、接骨院等が主な就職先です。教育人間科学部は、教育・学習支援業(教員)、医療・介護・社会福祉業(保育)に就職しています。教員に68名、幼稚園教諭に17名、保育士に63名、児童・障がい者児童支援員に12名です。



就職率

2025年3月に卒業した学生の就職率は99.3%で、昨年比プラス0.7%です。昨年、一昨年と過去最高の就職率を更新しました。特に民間企業は採用選考の早期化が顕著です。延べ5万件を超える求人をしていただき、就職率、求人件数を見ても就職環境は良好です。それでも早期からの準備は必要で、自己分析、業界研究、職種研究に取り組む学生は、就職活動終了の報告も早いです。準備を後回しにせずに取り組むことが大切です。

近年の就職活動の特色

3年生夏期休講からインターンシップ、オープンカンパニーといった就業体験プログラムを実施する企業が増えています。企業は学年にかかわらず、多くの学生と接点を希望しているため、近年はここから就職活動が始まっています。就職活動の形も多様化が進んでいます。就職情報サイトを利用する形が主流ですが、その他にもオファー型採用、社員紹介採用のリファラル採用、就職エージェント利用型採用などがあります。

キャリア支援センターの取り組み

キャリア支援センターは、学生の「進路」を学生と一緒に考える場所です。学生一人ひとりの「気持ち」や「想い」に寄り添い対応するように努めています。学生面談を中心に、就職対策講座等のガイダンス、学内業界セミナーなどを実施し、学生のキャリア支援に取り組んでいます。学生が社会に出る最後の場所として、学生の未来を支援するよう、全力で取り組んでいます。

本学学生の特徴

学生と面談をすると、大学で得た学びを社会で活かせる仕事に就きたい気持ちがひしひしと伝わってきます。企業・施設様からは「真面目」「素直」「努力を惜しまない」などの評価をよくいただきます。特に仕事への取り組み方を評価いただくことが多いです。実習などにおいてコミュニケーション能力の向上を図り、卒業研究、国家試験に粘り強く取り組むなど、物事に対してひたむきにに取り組む学生が多いと感じています。

大学院

科学技術・医療の教育研究を通じて、広く社会人と人類の発展に貢献することを目指す。



医療科学研究科(博士課程)

医療科学専攻 1年

笹目 洸暉 さん

学部・修士では、HSP(刺激に敏感な気質を持つ人)の生きづらさを研究してきました。就職を考える中で、気質の違いを超えて働く人々がどのようなストレスを抱え、どのように支援されるべきかに関心が広がり、「働く人々の健康支援」をテーマに研究したいと考えようになりました。現在は公認心理師として企業のストレスチェック支援にも従事しており、現場で求められるものを見極め、それを研究に結びつけ実務に活かすことが大学院で学び続ける大きな動機です。今後は国内外の研究者や働く方々と交流し、現場の課題を的確に捉えて研究に反映させ、その成果を社会実装につなげたいと考えています。働く人々の健康を支える仕組みづくりに貢献することが最終的な目標です。



Student

大学院医療科学専攻 津田 彰 教授

Professor

笹目さんは、「人々のウェルビーイングを創造する」という企業価値で社会変革に挑戦する会社に勤務されています。同時に、社会人院生として現場と研究室を往還しながら、博士論文の研究に取り組んでいます。我が国の産業・労働分野では、研究と実践の両立が可能な公認心理師は著しく不足しています。そうした背景を踏まえると、彼の研究テーマ「働く人のメンタルヘルスとウェルビーイングに焦点を当てたストレスマネジメントの開発」は、社会課題の解決に資する貴重なエビデンスになると確信しています。この8月には、デンバーで開催された米国心理学会(APA)2025大会(会員数17.2万人)のシンポジウムにおいて、研究室での最新成果「人的資本を育成する持続可能なリーダーシップとメンタルヘルスとの関連性」を発表し、成功を収めました。指導教授として、笹目さんが理論と実践を統合した「働きがい向上を目指す心理支援の専門活動」に、今後一層期待しています。

医療科学研究科

修士課程
2年

- 総合リハビリテーション学専攻
- 柔道整復学健康ケア専攻
- 看護学専攻

博士課程
3年

- 医療科学専攻

理工学研究科

修士課程
2年

- アニマルサイエンス専攻
- 環境マテリアル専攻
- バイオサイエンス専攻

博士課程
3年

- 先端科学技術専攻
- ・アニマルサイエンス領域
- ・環境マテリアル領域
- ・バイオサイエンス領域

取得可能な教員免許状
※理工学研究科のみ

中学校教諭
専修免許状(理科)

高等学校教諭
専修免許状(理科)

卒業生に会いに行く

「小笠原自然探検隊ONE」代表



石井 亮 さん

理工学部(現・生命環境学部)
アニマルサイエンス学科
2004年度 卒業

世界自然遺産に登録されている小笠原諸島の父島で自然ガイドとして「小笠原自然探検隊ONE」の代表を務める。また「ゲストハウス島じかん」という宿泊施設も運営し、多くのお客様を受け入れている。お客様には小笠原の自然や文化などを体感して楽しんでもらえるようご案内する傍ら、保全や調査などの仕事にも携わっている。

帝京科学大学で 4年間学んだことを 教えてください

A アニマルサイエンス学科の1期生だったこともあり、動物が1匹もない状況から先生方と一緒にいろいろな取り組みをさせていただきました。入学前は専門学校に通い動物飼育に関して学んだ経験から動物飼育室を作らせてもらい、学内で犬や猫をはじめいろいろな動物の飼育を通して生態や命の尊さについても学びました。また野生動物に関してはキャンパスの周辺調査から始まり、先生方に調査手法や観察方法などを教わることで、自らフィールドを開拓して行う自然へのアプローチの方法も身につきました。

仕事を始めた きっかけを 教えてください

A 在学中に参加した小笠原実習がきっかけで現在も島で働いています。もともと自然が豊かなキャンパスで、山の中などをメインフィールドに野生動物の調査などをしていました。そうした中、実習で訪れた小笠原は、小さな島で山もあり、周囲は海に囲まれた“生態系の全てが凝縮されたような”場所で、動物全般が好きな私にとってとても魅力的な環境であると感じました。卒業研究も小笠原で野生のイルカの生態を調査しました。その繋がりで卒業後も小笠原で自然ガイドとして就職することができました。

仕事にやりがいを感じる時は どんな時ですか？

A 小笠原へご来島くださるお客様に、自分が来島した時に受けた感動をガイドとして伝えるだけでなく、実際に体感していただき、自分が大好きなフィールドを楽しんでもらえた時はやりがいを感じます。ガイドをしつつ調査などにも携わり経験や知識を積むことで何度もご来島いただくお客様に、新たな感動をお届けできた時も嬉しく思います。また、保全の仕事にも関わることで、小笠原の自然を守り、自分が大好きなこの島がいつまでも変わらず楽しんでもらえるフィールドであり続けてくれればと考えています。

在学生へメッセージをお願いします！

学生時代は自由でもあります。逆に何かを突き詰めるチャンスでもあります。限りある時間をどのように使うかをよく考え、できるだけ多くの経験をして、自分に何が合っているのかを見つけましょう。そのために、興味や関心を持ったものにはためらわずにチャレンジして、そして楽しんでみてください。私が学生の頃は、大学の授業や活動以外でも空いた時間にはいろいろな場所へ行ったり、学会や講習会に参加したりもしました。自ら積極的に活動することで目の前の道が広がるはずですよ。



Letter to Parents

両親への手紙

両親にしっかりと感謝の手紙を書くのは何年ぶりでしょうか？大学卒業が間近に見えてきた夏にこれまでの振り返りと感謝を伝えたいと思います。

お父さん、僕が小さいころは公園でキャッチボールしたり、最近は学校帰りやバイト帰りの夜、一緒にテレビで野球観戦したり楽しい時間をありがとう。たまにものすごく怒られる時は怖かったけど。

来年から一人暮らしが始まって、こういった時間がなくなるのは寂しいけど、残された時間を精一杯楽しんでいきたいです。

お母さん、自分が寝坊して遅刻しそうなときでも、怒りながらもたたき起こしてくれたのはいい思い出です。自分が中高の受験時代に支えてくれたことも、今となってはとても感謝しています。学校帰りやバイト帰りに「今日はどうだった？」と聞いて、家族の会話も大切にしてくれましたね。

そんな僕も、3月には卒業して家を出る時が来ます。これを書いている時は、まだどこに行くか分かってないけれど、お父さん、お母さんの自慢の息子として社会に出るので安心してくださいね。

今まで育ててくれてありがとう。

木村 光孝さん

教育人間科学部
学校教育学科
中高理科コース 4年

